

## 情 報

# 若手の会企画による小集会 (17) 「ユメトーク！」開催報告

越智由紀恵<sup>1)</sup>・鎌田英一郎<sup>2)</sup>・高堂泰輔<sup>3)</sup>・廣岡義博<sup>3)</sup>・森田隆太郎<sup>4)</sup>

(愛媛大学大学院農学研究科<sup>1)</sup>・鳥取大学大学院連合農学研究科<sup>2)</sup>・京都大学大学院農学研究科<sup>3)</sup>・神戸大学大学院農学研究科<sup>4)</sup>)

2014年9月9日・10日に行われた日本作物学会第238回講演会(愛媛大学)において、10日(14:45-16:45)に若手の会企画による小集会「ユメトーク！」を開催した。本小集会は、日々の研究生活の中でふと想像する将来の自分の姿や将来成し遂げたいことなど、自分が思い描く夢について自由に語り合い、学会に参加している若手の方に交流の場を提供することを目的とした。小集会は夢発表とディスカッションの2部構成とし、それぞれ27名と22名の参加があった。

第1部では、大きな夢を描いている2名の若手研究者に将来の夢について発表していただいた。一人目の講演者である発起人の森田隆太郎からは、中学時代から思い描き始めた植物による社会問題の解決という夢の実現に向けて、高校・大学進学から現在に至るまでの変遷や経験を発表していただいた。また、森田は“自分でどうしたいかを考え、行動すること”を大切にしている現在の自分と将来の自分の姿を見つめており、これまでの経験の中で様々な刺激を受けながら、夢に向かって挑戦していた。

二人目の講演者である京都大学農学部、友部遼氏からは、自分の生い立ちやこれまでの経験から思い描いた夢、また夢実現に向けての奔走を熱く語っていただいた。友部氏は、幅広い知識や考え方に触れる機会を大切にしており、その経験から夢を実現するためには何が必要か、どう考え行動していけばいいか、一つひとつ明らかにしていた。その夢が具体化していく様子を熱く語る友部氏の一言一語に、会場も聞き入っていた。発表の途中では、両名とも参加者への質問を準備しており、発表者だけでなく聴衆も含めた会場全体で夢についての交流ができた。

第2部では、参加者が描く夢を、研究者・一般就職・夢探しの3グループ4班に大別し、1班6名~7名で自分の夢と他の参加者への質問について意見交換する場を設けた。班は学生から社会人までなるべく異なる所属や年齢で配置したため、職業・年齢を超えて様々な意見交換ができていた。とくに、学生や若手の参加者にとって、夢実現に向けての経験談を聞いたことは大変参考になっているようであった。

ディスカッションでは、夢に向かって挑戦していく中で選択を迫られた時、どのように考え、決断していくかという質問があった。グループ内ではタイミングや仲間、繋が

り、自分の信念などにより、これから挑戦するものを選んでいくなどの意見が出され、参加者はとても参考になっているようであった。また“夢は人生の過程で移り変わっていくものではないか”という意見もあり、夢に向かっていく道のりは人それぞれで大きく異なり、夢への挑戦を多角的にとらえられるよい交流ができた。一方で、夢を持っているが具体的にどのように行動していいかわからないといった参加者も多く、グループ内で意見交流する中で、アドバイスをいただいたり、これまでの経験談が参考になったりと有意義な時間を過ごすことができていたようだった。

小集会後のアンケートでは、夢を達成するために重要だと思うものは何か、の質問に対して熱意と答えた人が多く、次いで協力者であった。夢実現に向けての熱い想いと、共に夢に向かって進む仲間の重要性が感じ取られた。一方で、10年後大切にしていることは何か、という質問では仕事と共に家庭と答えた人が多く、家庭を大事にしながら夢に向かって頑張る将来像を思い描いている人が多かった。

今回のテーマである「ユメ」については、明確な夢や漠然とした夢、個人の夢や世界規模の夢など、夢に対する考え方は人それぞれだった。また、まだ明確な夢を思い描けていない人もいた。そのため、“大変参考になった、考えの幅が広がった”と答えた人がいた一方で、夢の解釈の違いから、交流がうまくできなかったという意見もあり、参加者が同じ方向性で話ができるようなテーマ設定、ディスカッション構成を練る必要もあったと感じる。夢については多岐にわたる話が聞けたためおもしろい小集会であったという評価もいただいたが、今回明らかになった課題も含めて今後引き継いでいき、次の若手の会企画小集会をさらに活発で充実した会になるようにしていきたい。

若手の会メーリングリストでは、若手の会発起人からの経過報告、会員が関係しているシンポジウムの情報、その他海外で活躍している若手からの情報などを積極的に発信している。随時登録を受け付けているので、登録希望の方は鎌田(r012gm@yamaguchi-u.ac.jp)まで連絡いただければ幸甚である。

謝辞：話題提供をいただいた友部遼氏には、深く感謝申し上げます。